

都道府県名

石 川

I. 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高松町立高松中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	17
生徒数	87	95	96	1	279	

II. 研究の概要

1. 研究主題

「自ら学ぶ力を育む学習活動の創造」
～学習指導要領に基づく学力向上を図るための教育実践～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科（学校として、全体として「学ぶ力」を高めさせたいと考えたため）

(2) 年次ごとの計画

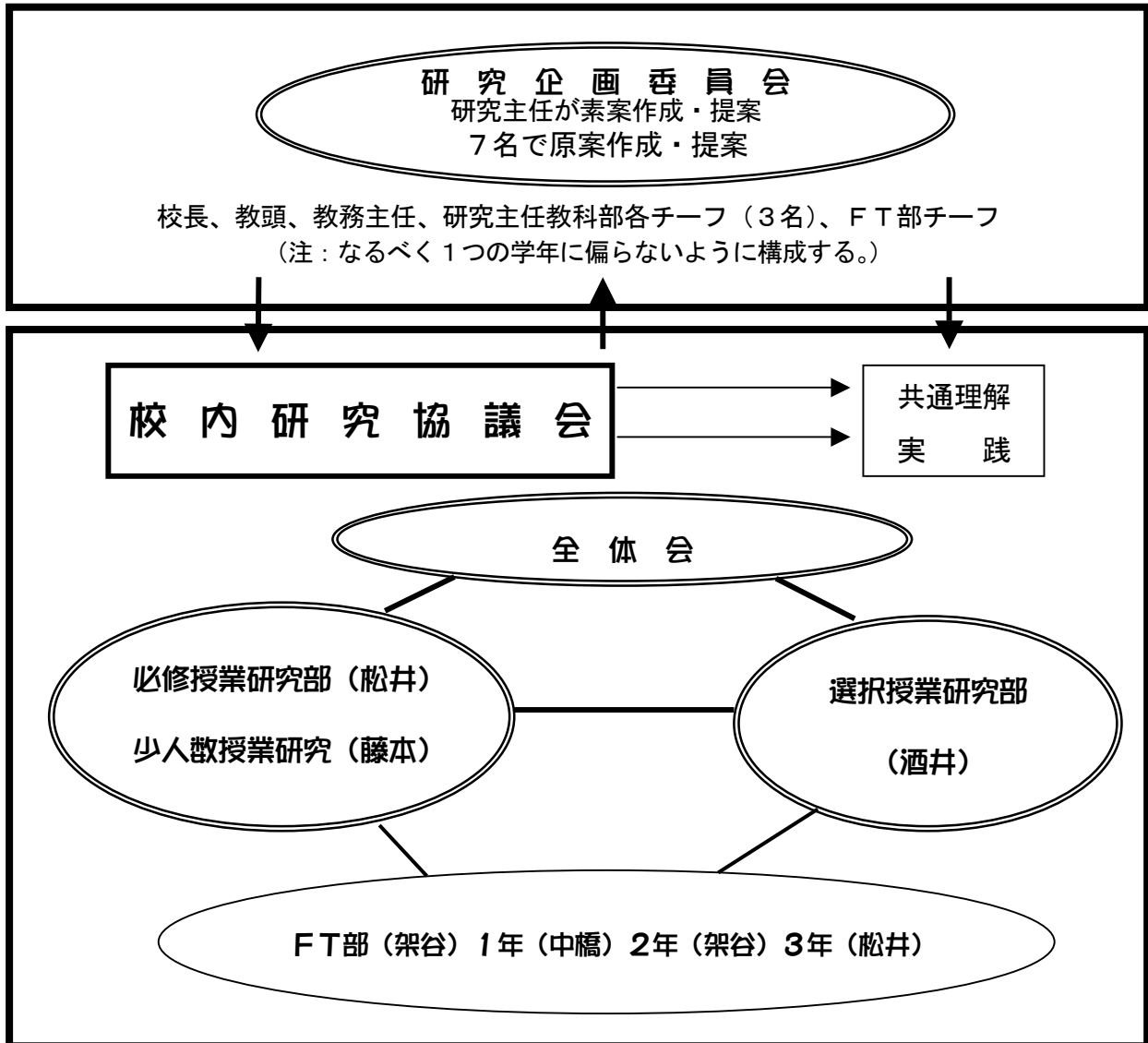
平成 14 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 新学習指導要領に基づく学力向上を図るための教育実践 ○ 仮説 新学習指導要領のねらいに沿った確かな学力の向上を目指す。そのために、 <ol style="list-style-type: none"> 1. 個を生かすための教育課程の工夫・改善をすること。 2. 選択教科において、個性を伸ばすための指導体制及び教材の開発をすること。 3. 必修教科において、学力向上を図るための指導方法及び意欲を喚起する評価の工夫をすること。 4. 学力向上につなげる総合的な学習の時間の積極的実践に取り組むこと。 これらの面からの取り組みを、互いに関連させつつ実践を継続していくことで、「自ら学ぶ力」の育成につながるであろう。 ○ 研究内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 時間割の組み方と配当時数の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4期に分けた時間割 ② 選択教科の指導体制づくりと発展教材の開発 ③ 評価を生かした指導のあり方と評定のつけ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用しやすい評価規準表の作成 ・ 観点別評価と評定の関係 ④ 理科における少人数授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学級を2クラスに分けて行う少人数授業 ・ 興味・関心の程度及び知識・理解の程度による学級分けによる少人数授業 ⑤ 自己表現力を高める手立ての検討と推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業面からだけでなく、生徒指導・特別活動面からも手立ての企画 ⑥ 総合的な学習の時間（FT）の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会、展示物の充実
--------------------	---

平成 15 年 度	<p>○ テーマ 学習指導要領に基づく学力向上を図るための教育実践 ※時期的な経緯をふまえ、(新)を削除する</p> <p>○ 仮説 学習指導要領のねらいに沿った確かな学力の向上を目指す。そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個を生かすための教育課程の工夫・改善をすること。 2. 選択教科において、個性を伸ばすための教材の開発をすること。 3. 必修教科において、学力向上を図るための指導方法及び評価を工夫すること。 4. 学力向上につながる総合的な学習の時間の積極的実践に取り組むこと。 <p>これらの面からの取り組みを、互いに関連させつつ実践を継続していくことで、「自ら学ぶ力」の育成につながるであろう。</p> <p>○ 研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 選択教科の時間と総合的な学習の時間における時間割の工夫 ② 選択教科の補充・発展教材の開発および評価規準の作成 ③ 単元別(題材別)評価規準表の作成と授業展開の工夫 ④ 学力向上への授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動と評価 ・授業展開の工夫 ・基礎基本の定着とその評価方法 ・公開授業と資料の提供 ⑤ 数学科・英語科における習熟度別の少人数授業の教材開発とその実践 <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業と資料の提供 ⑥ 自己表現力を高める手立ての推進と改善 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを高める活動の取り組み ⑦ 総合的な学習の時間(F T)の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・発表スタイルの工夫 <p>※学力の向上をめざし、必修教科と選択教科を中心にしながら研究を進めていきたいと考え、しぼりこんだ内容とした</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>○ テーマ 学習指導要領に基づく学力向上を図るための教育実践</p> <p>○ 仮説 新学習指導要領のねらいに沿った確かな学力の向上を目指す。そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個に応じた指導のための指導方法と指導体制の工夫と改善。 2. 学力向上を図るための評価を生かした指導の改善。 3. 選択教科において個に応じた指導のための教材開発をすること。 <p>これらの面からの取り組みを、互いに関連させつつ実践を継続していくことで、「自ら学ぶ力」の育成につながるであろう。</p> <p>○ 研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 習熟度の程度に応じた少人数指導等の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> ・必修教科と選択教科の連携指導 ② 学ぶ喜びをもつための課題解決型学習の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業と研究協議 ③ 基礎基本の定着と学力向上に向けた評価規準の作成と評価を生かした授業展開 <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業と資料の提供 ④ 豊かな表現力をつけるための場の設定と効果的な支援方法や評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業と研究協議
--------------------	---

(3) 研究推進体制

今年度は、必修・選択授業における豊かな表現力を身につけることを重点にするため、昨年の教科部を必修授業研究部と選択授業研究部に分けて進める。



注1：研究企画委員会、各研究部からの提案は、全て全体会を通し、共通理解を図る。

その後、各分掌、各教科部会で、具体的な話し合いや実践を行う。

注2：FT部からの提案は、各学年会で協議、実践をする。

その後、毎月の全体会で報告し、共通理解を図り、最終的には研究紀要でまとめる。

なお、必要に応じて、FTチーフより、報告文書を提示する。

	全体会 (茶谷)	必修授業研究部 (松井)	選択授業研究部 (酒井)	FT部 (架谷)
実践に到るまで		研究企画委員会 ↓ 全体会 研究部 ↓ 研究部 全体会 ↓ 実践	研究企画委員会 ↓ 全体会 研究部 ↓ 研究部 全体会 ↓ 実践	学年会 ↓ 実践 ↓ 全体会 ↓ 学年会
部員	全員	藤本・茶谷・奥村・宇野・松田 三輪・松島・杉澤	架谷・西尾正・正元・大路 西尾・中橋・杉本・浪元	学年会

Ⅲ. 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ① 選択教科の時間と総合的な学習の時間における時間割の工夫
 - ・ 昨年の反省を踏まえ、年度当初に配当時数と時間割上の位置付けを明確にした。教育課程の編成によって、計画的に指導することができ、時数の確保も確実だった。また、選択教科及び総合的な学習の時間（F T）の実践も計画的にできた。時間割を昨年4期であったものを3期に整えられたことも効果があった。
- ② 選択教科の補充・発展教材の開発および評価規準の作成
 - ・ 昨年度よりもコースが増え、生徒の希望もよりかなえられるようになった。発展的な学習では、国語・社会・美術科のそれぞれ一題材について評価規準表を作成し、選択教科としての支援と評価のあり方へ研究実践をスタートさせることができた。授業での成果や表現の仕方として、コンクールに出品したり文化祭や郡音楽会で発表や展示するなど、学んだ力を発揮する機会や場の設定をしたことも効果があった。
- ③ 単元別（題材別）評価規準表の作成と見直し
 - ・ 評価規準表の作成によって、単元の目標と評価規準を明らかにすることができた。また、授業のねらいに到達させるために必要な評価と支援・指導のありかたについての授業実践を進めることができた。
 - ・ 授業実践を通して、教科としての観点別評価について効果的な方法やそれに対する支援・指導方法を見直し教科間での共通理解をすすめることができた。
- ④ 学力向上（豊かな表現力）への授業改善
 - ・ グループ活動を授業展開に位置付け、少人数内で話し合う場面を設定した。話す機会が与えられたことで、恥ずかしさが薄れ、自分なりの考えをもつことの大切さとよりわかってもらおうとする姿勢が見られるようになった。
 - ・ 課題解決型の授業展開を共通理解し、実践してきた。課題を設定し解決するまでの過程として、予想することでの見通しを持たせることや調べたり、話し合ったりしながら追求する場面、そして最終的な課題に対する考えをまとめるという学習の流れを定着させてきた。そのことにより、学習の仕方（学び方）が身についてきた。
 - ・ 授業のねらいには観点別の評価規準を表記し、その到達度を確実に評価する方法について実践を通して試みてきた。授業の中での机間支援やワークシートを利用することは有効であり、またそのことから個に応じた支援方法や指導も幅広く行われるようになってきた。
 - ・ 観点別評価や基礎基本の到達度を評価するための、プリントやテスト問題にも研究が進められた。
- ⑤ 総合的な学習の時間（F T）の充実
 - ・ 昨年に引き続きつきたい力を「探求する力」「表現する力」「人とふれあう力」を掲げ、各学年で意識して取り組むことができた。特に3年生の修学旅行では「人とふれあう力」を目標に多国籍の留学生との交流を行い、自分をアピールするなど「表現する力」へと発展させる場面がみられた。
 - ・ 昨年の反省を生かし、小学校での学習内容と重複しないように情報交換しながら進めることができた。
 - ・ どの学年も文化祭や中間発表の時期がこれまでの学習結果の発表時期となった。掲示や制作展示、ステージでの発表など、これまでの学習成果に対する評価として十分役立てることができた。
- ⑥ 数学科・英語科における習熟度別の少人数授業の教材開発とその実践（資料1）
 - ・ 生徒一人一人に目が行き届き、きめ細かな指導ができ、また少ない人数の中で気軽に話し合える（教え合う・聞き合う）学習が身についてきた。
 - ・ 習熟度に応じた学習内容の工夫として、下位クラスでは基本問題に多くの時間をかけて理解させることで苦手意識をなくし、意欲と自信をもたせることができた。また、上位クラスでは難しい問題や応用問題に多くの時間をかけ、力を高めることができた。

資料 1

少人数授業アンケートから

■ はい □ どちらかといえばはい □ どちらかといえばいいえ □ いいえ

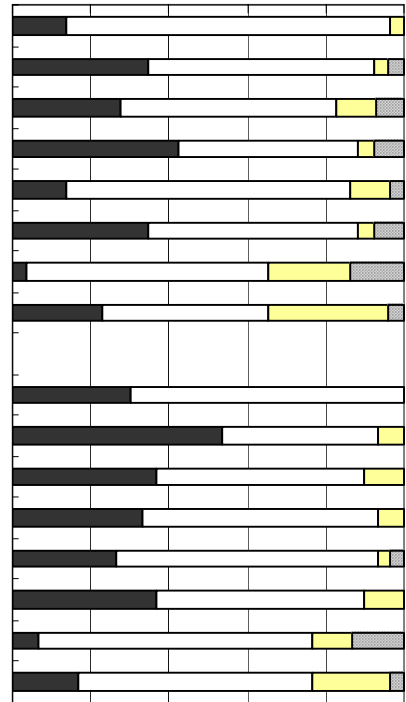
0% 20% 40% 60% 80% 100%

1年(英)

少人数の授業はよく分かりますか。1学期
 少人数の授業はよく分かりますか。2学期
 発言しやすいですか。1
 発言しやすいですか。2
 わからないところを詳しく教えてもらえますか。1
 わからないところを詳しく教えてもらえますか。2
 授業が楽しみですか。1
 授業が楽しみですか。2

2年(数)

少人数の授業はよく分かりますか。1
 少人数の授業はよく分かりますか。2
 発言しやすいですか。1
 発言しやすいですか。2
 わからないところを詳しく教えてもらえますか。1
 わからないところを詳しく教えてもらえますか。2
 授業が楽しみですか。1
 授業が楽しみですか。2



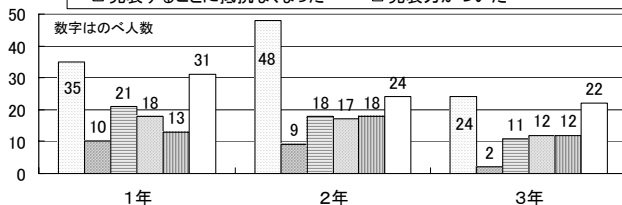
⑦ 自己表現力を高める手立ての推進と改善 (資料 2)

- ・ どの教科でもグループ活動を取り入れ、メンバーもその都度変わり、輪番制である進行係りとしての機会も得られることで意見をまとめることや、発言することの体験が生かされてきている。
- ・ 学級活動として帰りホームで行っている1分間スピーチやグループでの反省会といった取り組みで、人前で話すことに慣れ、数をこなしていくうちに抵抗感がなくなり、発表力がついてきた。
- ・ 学級サミットや学年サミットを行ったことで、リーダーの自覚が出て、学級の話合いが深まった。
- ・ グループ活動を通して、「話し合い」の手順や必要性また一人一人の意見の大切さがわかり、スムーズに自分の意見を言うことができるようになったことで、何人かの人がいる場面で自分の意見を述べる気恥ずかしさやためらいが軽減された。
- ・ 学習エール旬間を設定し、話し合いでのルールや一人一人の貴重な意見の尊重を確認しながら進めていくことができた。

資料 2

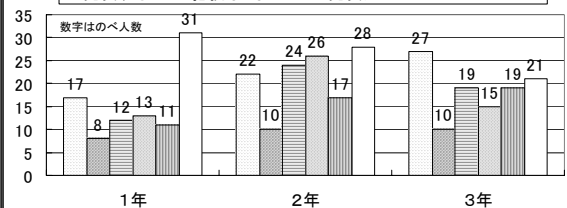
グループ活動を行ってどうでしたか？ 5月

□ みんなと話しやすくなった □ 自分が明るくなった
 □ 学級の雰囲気よかった □ 自分が発表するようになった
 □ 発表することに抵抗なくなった □ 発表力がついた



グループ活動を行ってどうでしたか？ 11月

□ みんなと話しやすくなった □ 自分が明るくなった
 □ 学級の雰囲気よかった □ 自分が発表するようになった
 □ 発表することに抵抗なくなった □ 発表力がついた



2. 今後の課題

《教育課程》

- ・生徒にとって、学習しやすい、学校生活が充実する運営及び編成を常に心がけていきたい。さらに、時間割編成など教師側にとっても動きやすい運営方法をできる範囲で検討していくことが必要である。
- ・選択教科とF Tの配当時数や内容については、必修教科も含めた関連性を考えたうえで、生徒の学力向上をめざすという学校のねらいと再度照合させながら検討する。

《選択教科》

- ・生徒の資質をさらに高め、能力を引き出すために、各教科でのさらなる教材の開発、指導方法の工夫を図るとともに、評価規準表の作成を進めていくこと。
- ・選択コース数の拡充を図り、生徒の希望を最大限にかなえさせる手段を検討する。
- ・補足的な内容のコースを充実させ、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。

《必修教科》

- ・課題解決型の学習について、課題の設定の仕方や生徒の興味関心を高める技法を深めていく必要がある。また、どの教科においても学び方の指導を共通理解して実践していくこと。
- ・生徒の学習活動（話し合う、調べる、観察する）時間を効果的に取り入れながら、教師の評価、支援する時間を確保していきたい。
- ・授業の中で、基礎基本の定着あるいは発展的な学習の時間を確保できる授業展開としていく必要がある。また、その場合に能力やつまずきなどの個の違いに対応できる教師側の配慮や準備体制も必要と思われる。
- ・観点別の評価に対する具体的な支援方法をさらに深め、明らかにしておくことが必要と思われる。

《少人数授業》

- ・習熟度別クラスでの授業には進度差が生じてしまう。理解させるための時間や内容について検討していく必要がある。
- ・習熟度に応じた評価をどのようにすればよいか。
- ・習熟度別クラス編成は生徒の希望と教師側のアドバイスによって決定されているが、編成ごとに個に応じたアドバイスや支援方法も必要である。

《F T（総合的な学習の時間）》

- ・F Tの活動及び発表、展示物の内容を保護者や地域の方々に見てもらえるように場所と機会の許す限り紹介してきたが、校内だけでなく町内（交流館、図書館）にも還元するなど町の人との交流を図っていきたい。
- ・来年度から高松町からかほく市となる。この機会にF Tの内容を見直すことも必要となる。

IV. 学力把握のための学校としての取組

- 実力テスト・郡統一テストの実施（4月・9月・11月・1月）
- 基礎学力調査（5月）

V. フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

- 14年度
 - ・「フロンティアスクール地区協議会」「きめ細かな指導推進会議」での報告
 - ・学校公開（11月25～27日の3日間の終日、本校）
 - テーマ：評価を生かした指導及びグループ活動を生かした表現力を高めるための授業実践
 - 対象：保護者・地域の人
 - ・研究紀要及び資料（単元別評価規準表、15年度必修・選択教科年間指導計画）

- 15年度
- ・「フロンティアスクール地区協議会」での報告
 - ・学校公開①（6月5～6日、本校）
 - テ ー マ：総合的な学習の時間の授業、少人数授業及び自己表現力を高めるための授業実践
 - 対 象：保護者・地域の人
 - 参加方法：町広報及び回覧により案内し、自由参観とする。
 - ・学校公開②及び中間報告会（11月19～20日、本校）
 - テ ー マ：選択教科の授業、少人数授業、自己表現力を高めるための授業実践
 - 対 象：保護者・地域の人・県内小中学校教職員
 - 参加方法：保護者・地域の人には、町広報及び回覧により案内し、自由参観とする。
県内小中学校教職員には、中間報告会の案内を配布し、自由参観とする。
 - ・学校公開③（2月16日、本校）
 - 内容は学校公開①と同じ
 - ・研究紀要及び資料（単元別評価規準表、16年度必修・選択教科年間指導計画）
- 16年度
- ・「フロンティアスクール地区協議会」での報告
 - ・学校公開①（6月上旬、本校）
 - テ ー マ：少人数授業及び学ぶ力を高めるための授業実践
 - 対 象：保護者・地域の人・県内小中学校教職員
 - 参加方法：保護者・地域の人には、町広報及び回覧により案内し、自由参観とする。
県内小中学校教職員には、学校公開の案内を配布し、自由参観とする。
 - ・学校公開②及び研究発表会（11月下旬、本校）
 - テ ー マ：選択教科の授業、少人数授業、学ぶ力を高めるための授業実践
 - 対 象：保護者・地域の人・県内小中学校教職員
 - 参加方法：保護者・地域の人には、町広報及び回覧により案内し、自由参観とする。
県内小中学校教職員には、研究発表会の案内を配布し、自由参観とする。
 - ・学校公開③（2月上旬）
 - 内容は学校公開①と同じ
 - ・研究紀要及び資料（単元別評価規準表、17年度必修・選択教科年間指導計画）

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 ・ 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 ・ 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 ・ 少人数指導 T. Tによる指導
 ・ その他

【研究教科】 国語 社会 ・ 数学 理科
 ・ 外国語 音楽 美術 技術家庭
 体育 ・ 全教科

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ・ 有 無